

問 26 最後に、四国中央市のボランティア活動の推進について、あなたのご意見・ご要望・ご提案があれば、ご自由にお書きください。

- 市内のスーパーなど、目につきやすい場所にボランティア活動の情報があれば良い。
- ボランティア活動についての情報が目につきやすく、入手しやすくなると良い。ボランティア市民活動センターの様子なども知れたら良い。センターの活動状況をもっと発信してほしい。
- ボランティア市民活動センターが、どのような内容の活動に取り組んでいるのかをケーブルテレビで放送してみても？ 広報紙のように活字で示すのも良いが、動いている姿を見たい。
- 市内で、いつ、どのような場所で、どういったボランティア活動をしているのか全く知らない。どうすれば知ることができるのか？
- ボランティア活動の情報を、広報紙や回覧板を使って、もっと市民に提供すると良い。
- ボランティア市民活動センターの存在すら知らない人が多いと思う。参加に前向きな人も多いと思うので、参加しやすくなるような工夫が望まれる。
- 子供の頃からのボランティア教育が必要だと思う。
- ボランティア市民活動センターが中心となり、ボランティアを必要とする公民館などと連携を図りながら、小さいことからでも行える体制を築いていけば良い。
- 色々なボランティアの方法があると思うが、自分に合ったものをしたい。そのためには、ボランティアを求めている内容を細かく紹介してほしい。一覧表などを作ってもらえれば助かる。
- 災害時には、「自分は自分で守る」「地域のことは自分で行う」というように、行政をあてにしない姿勢が必要である。
- ボランティア活動を試してみたいと思っても参加しにくい感じがする。遊び気分で参加は困ると思うが、多少は楽しく参加できるような、また、参加したいと思えるようなことが大切である。
- ボランティア市民活動センターのことは、広報で知らされていると思うが、勉強不足で知らなかった。センターがあることを、どのような方法で市民に知ってもらえることができるのか。公民館、集会所活動、その他の各集会ごとに周知していく必要があるのでは？
- 学校教育の現場において、体験活動を通じて身につく学習を深めてほしい。将来必ず生かされていくと思う。
- これから今よりもっと高齢者が多く、在宅介護が多くなると思う。介護者を助けるには、ボランティアの数も多くいると思う。介護者が困ったときなどに、精神的・体力的の不安を、少しでも軽くできるよう、話し相手になることが大切である。
- 60歳を目の前にして、何かボランティア活動をしたいとずっと思っている。機会があれば始めたい。
- ボランティア市民活動センターがあるということを全く知らない市民が大半であるため、市民への周知が必要。
- リーダーの養成が必須である。
- 市職員が、地域で模範となるような活動を率先して行い、市民の活動への参加の意識を高めるようにすると良い。
- ボランティア活動は、きっかけがないとできない部分もあるので、会社全体で毎月1回、何かに取り組めば良いと思う。そうすればきっかけになると思う。
- 災害がいつ起こるか分からない時代がきており、また、少子高齢化社会に直面しているため、活動の推進を希望する。